

日本では、循環器疾患診療の多くの部分を循環器専門医が担っています。しかし、急速な高齢化に伴い、心不全、急性冠症候群、心房細動などの患者が増加しており、循環器専門医だけでER、CCU、一般病棟、継続外来のすべてをカバーすることは困難になりつつあるのが現状です。そのうえ、糖尿病、肺炎、認知症などの疾患を合併している患者も増加しており、ホスピタリストがそのような患者をマネジメントする機会が増えています。これまで循環器疾患を診る機会があまりなく、経験、知識が十分とは言えないホスピタリストが、必要に応じて専門医の助けを借りながら、ケアの質を落とさず、循環器疾患を診療することが求められてきています。そこで、ホスピタリストが循環器専門医と協働し、循環器疾患患者をER、一般病棟、継続外来でマネジメントできるようになることを目標としたのがこの循環器疾患特集です。今後複数回で特集を組みますが、その第一弾としてまず『虚血性心疾患』を取り上げ、『安定虚血性心疾患』『ST上昇型心筋梗塞』『非ST上昇型心筋梗塞』『不安定狭心症』『冠攣縮性狭心症』を扱います。ホスピタリストが循環器専門医と共通言語でディスカッションできるよう、例えば、胸痛患者の初期対応をホスピタリストが行い、循環器内科にコンサルトするとき、何をゴールに設定して、どのような目的で、どのような情報が必要となるかがわかります。すなわち、患者が最善のアウトカムを得られるように本特集は構成されています。

1. 虚血性心疾患：病歴と身体所見の注意点

[ミニコラム] 無症候性心筋虚血：胸痛がない場合は軽症か？

2. 虚血性心疾患の疫学

[コラム] 心血管イベント発症予測ツール

[コラム] 虚血の生理：冠動脈造影は常にゴールドスタンダードか？

[コラム] 虚血で生じること

3. 安定虚血性心疾患の診断とリスクの層別化

4. 安定虚血性心疾患の治療：薬物治療・抗狭心症治療と心筋梗塞予防治療を分けて理解しよう！

5. 安定虚血性心疾患の治療：血行再建：常に最初からPCIやバイパス手術は必要か？

[コラム] もし血行再建するとしたら、PCI vs. CABG？

[コラム] ホスピタリストも知っておくべきPCIの合併症：再狭窄とステント血栓症

6. 急性心筋梗塞の定義と病態生理

7. 急性心筋梗塞の初期マネジメント：ERから心カテ、CCUに入室まで

[コラム] 抗血小板薬

[コラム] 血栓溶解剤の適応：プライマリPCI施設まで非常に遠い場合は考慮

[コラム] 胸痛患者、ERでのlow risk群の見分け方：どういった患者は帰宅可能か？

[コラム] 急性心筋梗塞の心電図

[ミニコラム] no reflow現象：STEMIでPCI後、ECGをチェックしよう！

8. 非ST上昇型急性冠症候群のマネジメント総論

[コラム] バイオマーカー：トロポニンについて

[ミニコラム] トロポニン迅速キット

9. 急性心筋梗塞の入院治療：退院までにすべきこと

10. 冠攣縮性狭心症

[ミニコラム] 急性心筋梗塞を疑い、もし正常冠動脈なら鑑別は

※誌面の都合により、内容が変わることがあります。

● BackNumber

■ Vol.1 (2013年)

No.1 ホスピタリスト宣言

No.2 感染症

■ Vol.2 (2014年)

No.1 腎疾患

No.2 膠原病

No.3 消化管疾患

No.4 緩和ケア

■ Vol.3 (2015年)

No.1 呼吸器疾患1

No.2 外来における予防医療

No.3 循環器疾患1

No.4 血液疾患

国会の最近の審議で「リスク」という言葉が多く使われている、との新聞記事がありました。よく使われているにもかかわらず、その定義となると曖昧で、抽象的な議論に陥ってはいないか、という指摘です。同じ政治の場面で「肅々と」は「上から目線だ」とクレームがついたこともありました。言葉の使い方一つで、実質的な議論が見えなくなるような不便さがあり、議論の成立にもひと苦勞となりそうです。今回の特集では、患者と医師の言葉のやりとり、意思決定の道筋をつけていく症例提示が印象的でした。正しく、かつその場に適した使い方が求められるということです。さて、この秋の第2回JHNセミナーは「循環器疾患」がテーマです。次号特集ともリンクしており、循環器の問題をどのような言葉で議論すればよいのかが学べる内容になります。詳細は近々発表される予定。夏を乗り切り、循環器の秋を迎えましょう。

● 広告一覧

JHospitalist Network……287

明石医療センター……表3

医学書院……394, 410

日本医書出版協会……517

Vol.3 No.2 2015年6月1日発行〔年4回(3, 6, 9, 12月1日)発行〕

Hospitalist

(1部)定価：本体4,600円+税
2015年年間購読料：19,008円(4冊, 税込, 送料弊社負担)

発行者 若松 博

ISBN 978-4-89592-942-4

発行所 株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
電話：編集部 03-5804-6056 FAX：編集部 03-5804-6054
販売部 03-5804-6051 販売部 03-5804-6055
URL：http://www.medsico.jp Eメール：hospitalist@medsico.jp
振替：東京 7-28572

印刷所 横山印刷株式会社 電話03-3622-6161
広告取扱 メディカルブレーション 電話03-3814-5980
日本医学広告社 電話03-5226-2791
文京メディカル 電話03-3817-8036
福田商店広告部 電話06-6231-2773

本誌の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)メディカル・サイエンス・インターナショナルが保有します。本書を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】<社出版者著作権管理機構 委託出版物>本書の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に社出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。